

彙 報

彙 報 第 一

前会長 井 上 和 子

昭和60・61・62年度、各種役員の選挙結果について

学会会則に基づき、昭和60・61・62年度の各種役員の選挙を、昭和59年12月15日に発送、60年1月13日投票締切り、1月26日開票の順で行なった。その結果は次のとおりである。

投票総数	144	うち有効投票数	137
会長選挙		投票数	137
		うち有効投票数	129
		白票	2
		無効	6
当 選	国広 哲弥		22票
次 点	柴田 武		15票
次々点	小泉 保		12票

その他の諸委員の選挙結果は次のとおりである。

編集委員長選挙		投票数	135
		うち有効投票数	131
		白票	0
		無効	4
最高点	国広 哲弥		14票
当 選	小泉 保		9票

次 点 堀井令以知 9票

次々点 下宮 忠雄 8票

* 国広哲弥氏が会長に就任されたため、小泉 保氏が繰上げ当選となった。

なお、小泉 保氏と堀井令以知氏の順位は選挙細則 C-1 に基づく抽選によって決定した。

会計監査委員選挙 投票数 272 (136×2)

うち有効投票数 243

白票 6

無効 23

当 選 奥津敬一郎 14票

当 選 松本 克己 14票

次 点 北村 甫 9票

次々点 千野 栄一 8票

委員選挙 当選者 (五十音順)

1) 北海道 (2名)

池上 二良, 田中 利光

2) 東 北 (2名)

加藤 正信, 長谷川松治

3) 関 東 (34名)

石綿 敏雄, 井出 祥子, 井上 和子, 井上 史雄, 梅田 博之,
上野 善道, 大東百合子, 亀井 孝, 北村 甫, 日下部文夫,
グロータース・W・A , 柴田 武, 下宮 忠雄, 田中 克彦,
田村すず子, 千野 栄一, 築島 裕, 寺村 秀夫, 徳永 康元,
長嶋 善郎, 奈良 毅, 野元 菊雄, 服部 四郎, 林 大,
平山 輝男, 南 不二男, 三根谷 徹, 宮岡 伯人, 宮島 達夫,
村木 正武, 村山 七郎, 矢島 文夫, 湯川 恭敏, ロボ・フェリス

4) 中 部 (6名)

小泉 保, 清水 克正, 柘植 洋一, 角田 太作, 日野 資純,
藤本 幸夫

5) 近 畿 (19名)

寛 壽雄, 五島 忠久, 近藤 達夫, 阪倉 篤義, 崎山 理,
佐藤 昭裕, 柴谷 方良, 庄垣内正弘, 杉藤美代子, 徳川 宗賢,
西田 龍雄, 林 栄一, 樋口 康一, 蛭沼 寿雄, 堀井令以知,
前田 富祺, 藪 司郎, 山口 秀夫, 吉田 金彦

6) 中国・四国 (4名)

岩倉 国浩, 関本 至, 竹内 和夫, 吉川 守

7) 九州・沖縄 (2名)

大江 三郎, 仲宗根政善

* 関東地区委員は, 国広哲弥氏が会長に, 奥津敬一郎, 松本克己の両氏が会計監査委員に当選したため, 次点者以下3名が繰上げ当選となった。

* また関東地区では見坊豪紀氏が当選したが辞退した。

昭和59年度会計報告

昭和59年度決算は下記のとおり確定し, 4月26日に会計監査を受け, 監査委員の承認を得た。

〔別表 1〕 昭和 59 年度日本言語学会決算

自 昭和59年 4 月 至 昭和60年 3 月

(単位 円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
B 会 費	6,904,060	1 刊 行 費	3,286,534
C 雜 誌 売 上	161,700	2 編 集 費	200,000
D 文 部 省 補 助 金	720,000	3 発 送 費	452,545
E 預 金 利 息	47,768	4 大 会 関 係 費	816,179
F 雜 収 入	1,800	5 委 員 会 費	14,500
		6 常 任 委 員 会 費	239,816
		7 九 学 会 連 合 会 費	80,000
		8 C I P L 負 担 金	104,100
		9 選 挙 関 係 費	409,554
		10 通 信 費	250,803
		11 事 務 費	239,770
		12 事 務 所 賃 借 料	100,000
		13 事 務 局 職 員 謝 金	1,198,550
		16 雜 費	4,800
収入合計	7,835,328	支出合計	7,397,151
A 前期繰越	2,868,807	15 選 挙 関 係 等 準 備 積 立 金	0
		17 次 期 繰 越	3,306,984
計	10,704,135	計	10,704,135

○ 支 出 内 訳

1. 刊 行 費	第 86 号	1, 702, 738
	第 87 号	1, 583, 796
3. 発 送 費	第 86 号 他	184, 235
	第 87 号 他	268, 310
4. 大会関係費	第 88 回大会	309, 330
	第 89 回大会	506, 849
5. 委員会費	第 1 回	7, 300
	第 2 回	7, 200
6. 常任委員会費	第 1 回	61, 766
	第 2 回	178, 050
9. 選挙関係費	選挙名簿作成経費	96, 550
	投票用紙, 封筒代等	20, 984
	選挙管理委員会経費	31, 000
	切手代	261, 020

◇ 物 故 会 員

鬼 春人 (昭和60年2月24日逝去)

藤堂 明保 (昭和60年2月26日逝去)

◇ 受贈図書リスト (昭和59年12月1日～昭和60年3月31日)

宇部短期大学学術報告 No. 21

(宇部短期大学 1984)

- 英語への招待 (英語語法研究所 1984)
- カナノヒカリ ダイ 747-751 ゴウ (カナモジカイ 1984-1985)
- 外国文学研究 62-63 (立命館大学外国語科連絡協議会 1984)
- 計量国語学 第14巻第7号 (計量国語学会 1984)
- 研究論集 No. 41 (関西外国語大学, 関西外国語短期大学 1985)
- 研究論叢 第8巻第2号 (東亜大学学術研究所 1984)
- 言語学研究 第3号 (京都大学言語学研究会 1984)
- 考古学雑誌 第70巻第2号 (日本考古学会 1984)
- 国語学 138 (国語学会 1984)
- 国語学, 研究と資料 第8号 (国語学研究と資料の会 1984)
- 国立民族学博物館研究報告 第9巻第3号 (国立民族学博物館 1984)
- 宗教研究 第58巻第三輯 (日本宗教学会 1985)
- 昭和58年度国立国語研究所年報 (国立国語研究所 1984)
- 人類学雑誌 第92巻第4号 (日本人類学会 1984)
- 朝鮮学報 第百十一輯, 第百十二輯 (朝鮮学会 1984)
- 通信 第51号 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 1984)
- 東方学 第六十九輯 (東方学会 1985)
- 東方学会報 No. 47 (東方学会 1984)
- 名古屋学院大学外国語教育紀要 No. 11
(名古屋学院大学外国語教育研究センター 1984)
- 新潟大学教育学部紀要 第26巻第1号 人文・社会科学編
(新潟大学教育学部 1984)
- 日本学術会議月報 第25巻第10-12号, 第26巻第1-2号
(日本学術会議 1984-1985)
- 日本常民文化紀要 第十輯 (成城大学大学院文学研究科 1984)
- 比較文化雑誌 2 (東京工業大学比較文化研究会 1984)
- 放送文化 1984. 11-12月号, 1985. 1-3月号 (日本放送出版協会 1984-1985)
- 民族語文 5-6 (中国社会科学出版社 1984)
- みんぱく 1984. 11-12月号, 1985. 1-3月号 (民族学振興会 1984-1985)

- 山口大学教養部紀要 第18卷 (自然科学篇) (山口大学教養部 1984)
- 山口大学教養部紀要 第18卷 (人文科学篇) (山口大学教養部 1984)
- 山口大学独仏文学 第6号 (山口大学独仏文学研究会 1984)
- 山口大学文学会誌 第三十五卷 (山口大学文学会 1984)
- ACTA ASIATICA 47 (東方学会 1985)
- ArOr Vol. 52 No. 2-3 (Academia Praha 1984)
- Bulletin of the School of Oriental and African Studies
Vol. XLVII Part 3 (University of London 1984)
- Commentationes Humanarum Litterarum 75
(Societas Scientiarum Fennica 1984)
- ESSAYS IN COMMEMORATION OF THE GOLDEN JUBILEE OF
THE FUNG PING SHAN LIBRARY (1932-1982)
(香港大学馮平山圖書館 1982)
- LINGÜÍSTICA HISPÁNICA Vol. 7 (関西スペイン語学研究会 1984)
- LINGUISTIQUE ET LITTERATURE 2, 1984
(ACADEMIE BULGARE DES SCIENCES 1984)
- LITERATURE, MUSIC, FINE ARTS Vol. XVII No. 2
(GERMAN STUDIES 1984)
- Litteratura 5 (名古屋工業大学外国語教室 1984)
- MIDDLE CHINESE
(UNIVERSITY OF BRITISH COLUMBIA PRESS 1984)
- NAŠE ŘEČ 3-4 (ORIENTAL INSTITUTE ČSAV 1984)
- NEWSLETTER No. 17
(THE SCANDINAVIAN INSTITUTE ČSAV 1984)
- SLOVO A SLOVESNOST 4 XLV-1984
(ORIENTAL INSTITUTE ČSAV 1984)
- SOPHIA LINGUISTICA XVI-XVII (上智大学 1984)
- VISIBLE LANGUAGE XVIII 3 Summer (VISIBLE LANGUAGE 1984)
- Русская Литература* No. 3-4 (Академия Наук СССР 1984)

Русский Язык в Школе 4

(Москва 1984)

Українська Мова і Література в Школі 9, 11, 1

(Київ Радянська Школа 1984-1985)

彙報 第二

会長 国広哲弥

昭和60年度第1回常任委員会

日時：4月23日(火) 17時30分～21時

場所：三省堂内言語学会事務局

出席者：国広哲弥(会長)、梅田博之、荻野綱男、菊地康人、田村すす子、長嶋善郎、長谷川欣佑(以上常任委員)、小泉保(編集委員長)、上野善道(事務局長)

欠席者：1名

議事ならびに報告

- (1) 第90回大会について(研究発表者の選定、プログラムの決定)
- (2) 昭和59年度決算報告。
- (3) 昭和60年度予算案の作成。
- (4) 学会事務の一部外注の件。

昭和60年度第1回委員会

日時：6月8日(土) 午前10時～

場所：独協大学中央棟第三会議室

出席者：国広哲弥(会長)、池上二良、井上和子、井上史雄、梅田博之、上野善道(事務局長)、大東百合子、笥 壽雄、加藤正信、北村 甫、小泉保、近藤達夫、崎山 理、佐藤昭裕、庄垣内正弘、杉藤美代子、関本至、竹内和夫、田村すす子、柘植洋一、角田太作、徳川宗賢、長嶋善

郎, 奈良 毅, 西田龍雄, 野元菊雄, 服部四郎, 樋口康一, 平山輝男,
前田富祺, 宮岡伯人, 村木正武, 村山七郎, 矢島文夫, 藪 司郎, 湯
川恭敏, 吉田金彦 (以上 37 名)

委任状: 27 名

オブザーバー: 松本克己(会計監査委員), 菊地康人(常任委員)

議事ならびに報告

- (1) 新会長の挨拶。
- (2) 会長から常任委員と事務局長の紹介があり, 小泉保編集委員長から編集委員の紹介があった。
- (3) 第1回常任委員会の報告。
- (4) 昭和59年度の決算報告が会計監査委員国広哲弥よりあり, 承認された。(別表1参照)
- (5) 言語学会事務局が今年度から三省堂内に常設された件が報告された。
- (6) 学会事務の一部を「財団法人日本学会事務センター」に委託する件について審議し, 承認した。委託する事務内容は, 入退会事務の処理, 会費受け入れ, 『言語研究』および大会プログラムの発送, である。
- (7) 会費納入方法の変更。「日本学会事務センター」への事務の移行に伴い, 会費納入はすべて同センターに行ない, 従来行っていた大会会場における納入は廃止することとし, 承認された。
- (8) 昭和60年度の予算案が審議され, 承認された。(別表2参照)
- (9) 昭和60~62年度の選挙管理委員の選挙(4名連記)を行ない, 次の8名を選出した。
上野善道, 荻野綱男, 北村 甫, 下宮忠雄, 長嶋善郎, 野元菊雄,
平山輝男, 村木正武
- (10) 第91回大会(昭和60年度秋)の開催を金沢大学が引き受ける旨, 柘植洋一氏より報告があった。大会運営委員長は柏木英彦氏。
- (11) 日本学術会議の改組に伴い, 研究連絡委員会委員とその任期を次のようにすることが了承された。

東洋学研究連絡委員会委員 池上二良氏

語学・文学研究連絡委員会委員 西田龍雄氏

任期は、今後、日本学術会議の研究連絡委員会委員のそれに合わせる。

両氏の任期は昭和60年7月22日から昭和63年7月21日まで。

- (12) 野元菊雄氏より、昭和60年度の九学会連合の大会および理事会（一橋大学）に出席の報告があり、昭和61年度の当番学会が日本言語学会になったことが伝えられた。

〔別表 2〕

昭和 60 年度日本語学会予算

自 昭和60年 4 月 至 昭和61年 3 月

(単位 円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
A 前期繰越	3,306,984	1 刊行費	4,300,000
B 会費	6,300,000	2 編集費	300,000
C 雑誌売上	150,000	3 発送等事務委託 費及び発送実費	1,610,000
D 文部省補助金	720,000	4 大会関係費	720,000
E 預金利息	50,000	5 委員会費	30,000
		6 常任委員会費	300,000
		7 九学会連合会費	80,000
		8 C I P L負担金	110,000
		9 選挙関係費	0
		10 通信費	440,000
		11 事務費	200,000
		12 設備費	1,000,000
		13 事務局職員謝金	620,000
		14 予備費	600,000
		15 選挙関係等 準備積立金	160,000
		16 雑費	56,984
計	10,526,984	計	10,526,984

第90回大会

期 日 昭和60年6月8日(土)・9日(日)

会 場 独協大学

第1日 (6月8日)

開会の辞 午後2時より

公開講演 会長就任講演：認識と言語表現

国 広 哲 弥

Language without Sound

D. D. Steinberg

会員懇親会 午後5時30分より

第2日 (6月9日)

研究発表 午前10時30分～12時00分

○A会場

(A1) 日本語の語源と単語家族——語根 *par- をめぐって——

藤 原 明

(A2) 助数詞(類別詞)の意味構造と体系

松 本 曜

(A3) マレー語とタイ語のクラシファイヤーについて

綾 部 裕 子

○B会場

(B1) 「ウチニ」構文——対立性と自制性——

山 崎 和 夫

(B2) 意味の有縁性と構造の hierarchy

Andrej Bekeš

(B3) Lexico-semantic transfer と prototype conditions

阿 部 一

会員総会 午後1時00分～1時20分

研究発表 午後1時30分～4時15分

○A会場

(A4) 古代ヘブル語の物語文におけるテンス・アスペクトについて

池 田 潤

(A5) 古代セム語の詩的並行法における語の隣接性と

依存関係について——修辭的挿入現象の場合

津 村 俊 夫

(A 6) ロシア語における動詞と不定詞の結びつきについて

北 上 光 志

(A 7) ワロゴ語談話における共指示と能格性(その1)

角 田 太 作

(A 8) ツォウ諸語(台湾)における動詞の“類別接頭辞”
(classificatory prefixes)

土 田 滋

○B会場

(B 4) 英語不定詞関係節構文の一側面

坪 井 栄 治 郎

(B 5) 英語の Locative Inversion Construction について

田 路 敏 彦

(B 6) 英語複合語の内部構造

伊 藤 た か ね

(B 7) 言語の ‘configurationality’ に関する
いくつかの問題点について

吉 村 公 宏

(B 8) Lambek の統語計算演繹体系による主語・
補助語倒置(SAI)の分析

藪 内 稔

閉会の辞

◇ 日本学術会議新会員 日本言語学会が推薦した西田龍雄氏(顧問)が5月9日に行なわれた推薦人会議において新会員に選出された。

◇ 物故会員

青木登志雄（昭和59年5月逝去）

前島儀一郎（評議員）（昭和60年6月19日逝去）

王 育徳（昭和60年9月9日逝去）

山末 一夫（昭和60年9月14日逝去）

故 前島儀一郎 氏

本会評議員の前島儀一郎先生が、去る6月19日に逝去された。享年80歳。1904年11月3日大阪市に出生。京都大学在学中新村出博士の薫陶を受ける。卒業後東京大学大学院の市河三喜博士のもとで英語史を専攻。大阪北野中学、成城高校、成城大学で教鞭を執った後、53年より名古屋大学教授。英語学、ゲルマン語学、古代ノルド語、中世フランス語、フランス語学を講義。この間60年には文部省在外研究員として欧米（主として英、米、^{アメリカ}）にて研究。62年「英語再帰動詞の研究」により京都大学から文学博士号を受ける。68年定年退官後京都産業大学教授を79年まで。主著は「英仏比較文法」「英独比較文法」、他論文多数に及ぶ。主訳書は「頭韻と近代英国文化」「シェイクスピア・聖書の語法」「シンタクスの原理と根本問題」「アメリカ語法事典」など。文学にも深い理解を示される。最後のお仕事は「古典語・英独仏比較シンタクス」（未刊）である。合掌。

（津野熊絵一郎記）

◇ 受贈図書リスト（昭和60年4月1日～7月31日）

アフリカ学術調査共同研究プロジェクト報告 No. 14-18

（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 1982-1984）

大阪教育大学紀要, 第I部門人文科学 第33巻第1-2号（大阪教育大学 1984）

外国学研究 XV（神戸市外国語大学外国語研究所 1985）

外国文学研究 64-65（立命館大学外国語科連絡協議会 1985）

カナノヒカリ ダイ 752-756 ゴウ（カナモジカイ 1985）

計量国語学 第14巻第8号, 第15巻第1号（計量国語学会 1985）

研究紀要 第6巻第1号（鹿児島女子大学 1985）

言語・文化研究 第3号（東京外国語大学大学院外国語学研究科 1985）

言語文化研究 XI（大阪大学言語文化部 1985）

考古学雑誌 第70巻第3-4号（日本考古学会 1985）

国語学 139, 141（国語学会 1984-1985）

国語学研究 24（東北大学文学部「国語学研究」刊行会 1984）

国立民族学博物館研究報告 第9巻第4号（国立民族学博物館 1985）

- 史苑 第44巻第1-2号 (立教大学史学会 1985)
- 宗教研究 第58巻第四輯, 第59巻第一輯 (日本宗教学会 1985)
- 人文科学科紀要 第81輯 国文学・漢文学 XXII
(東京大学教養学部人文科学科 1985)
- 人文論叢 No. 10 (東京工業大学 1984)
- 人類科学 37 日本の沿岸文化 〈3冊〉 (九学会連合 1984)
- 人類学雑誌 第93巻第1-2号 (日本人類学会 1985)
- スーダン・サーヘル地域学術調査報告
(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 1984)
- 専修語学ラボラトリー論集 第13号 (専修大学LL研究室 1984)
- 朝鮮学報 第百十三輯, 第百十四輯, 第百十五輯 (朝鮮学会 1984-1985)
- 通信 第52-53号
(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 1984-1985)
- 東京大学言語学論集 '84 (東京大学文学部言語学研究室 1984)
- 東方学会報 No. 48 (東方学会 1985)
- 東洋学報 第66巻第1・2・3・4號 (東洋文庫 1985)
- 都大論究 第22号 (東京都立大学国語国文学会 1985)
- 独協大学外国語教育研究 第3号 (独協大学外国語教育研究所 1985)
- 名古屋学院大学外国語教育紀要 No. 12
(名古屋学院大学外国語教育研究センター 1985)
- 新潟大学教育学部紀要 第26巻第2号 (新潟大学教育学部 1985)
- ニダバ 第14号 (西日本言語学会 1985)
- 日本学士院紀要 第四十巻第一號, 第二號 (日本学士院 1984-1985)
- 日本学術会議月報 第26巻第3-6号 (日本学術会議 1985)
- 日本語研究 第7号 (東京都立大学日本語研究会 1984)
- 中本正智「日本語の系譜」 (青土社 1985)
- 日本常民文化紀要 第十一輯 (成城大学大学院文学研究科 1985)
- 日本の風土 (九学会連合 1985)
- 日本民俗学 157・158, 159 (日本民俗学会 1985)

- 函館英文学 XXIV (函館英語英文学会 1985)
 文学研究 第八十二輯 (九州大学文学部 1985)
 法政大学文学部紀要 第30号 〈2冊〉 (法政大学文学部 1984)
 民族語文 1985.1-3 (中国社会科学出版社 1985)
 みんぱく 1985.4-7月号 (千里文化財団 1985)
 山口国文 第8号 (山口大学人文学部国語国文学会 1985)
 山口女子大学研究報告 第10号 (山口女子大学 1984)
 山口女子短期大学紀要 第17集 (山口女子短期大学 1985)
 立正大学国語国文 第21号 (立正大学国語国文学会 1985)
 論集 35 (神戸大学教養部 1985)
 ACTA ASIATICA 48 (東方学会 1985)
 ARBEJDS PAPIRER 4 (Københavns Universitet 1984)
 ArOr Vol. 52 No. 4, Vol. 53. No. 1. (Academia Praha 1984-1985)
 Bulletin de la Société de Linguistique de Paris Tome LXXIX-1, 2
 (Société de Linguistique de Paris 1985)
 Bulletin of the School of Oriental and African Studies
 Vol. XLVIII Part 1 (University of London 1985)
 Current Contents of Academic Journals in Japan 1983-1984
 The Humanities and Social Sciences (学会誌刊行センター 1985)
 LEXICON No. 14 (岩崎研究会 1985)
 Linguistic Research No. 3
 (Tokyo University English Linguistics Association 1985)
 Linguistics and Linguistic Evidence LAGB 25
 (Grevatt & Grevatt 1985)
 Linguistics and Philosophy Vol. 8 No. 1
 (D. Reidel Publishing Company 1985)
 LINGUISTIQUE ET LITTÉRATURE 3, 1984
 (ACADEMIE BULGARE DES SCIENCES 1984)
 LITERATURE, MUSIC, FINE ARTS Vol. XVIII No. 1

- (GERMAN STUDIES 1985)
- NAŠE ŘEČ 5 (ORIENTAL INSTITUTE ČSAV 1984)
- PHILOLOGIA 17 (三重大学英語研究会 1985)
- SLOVO A SLOVESNOST 1 XLVI-1985
(ORIENTAL INSTITUTE ČSAV 1985)
- Studia Phonologica XLIII (京都大学 1984)
- Вестник Ленинградского Университета* 4. 1984, 1-2. 1985
(Ленинград 1984-1985)
- Русская Литература* No. 2. 1984, No. 1-2. 1985
(Академия Наук СССР 1984-1985)
- Русский Язык в Школе* 5-6. 1984, 1-2. 1985 (Москва 1984-1985)
- Українська Мова і Література в Школі* 2-4. 1985
(Київ Радянська Школа 1985)

◇ お知らせ

第32回国際アジア・北アフリカ研究会議が、1986年8月25日～30日にハンブルクで開かれます。First Circular の申し込み先は次の通り。

〒101 東京都千代田区西神田 2-4-1 東方学会内
国際アジア・北アフリカ研究会議国内委員会

◇ 本誌は文部省昭和60年度科学研究費補助金の交付を得て刊行されたものである。